

6.5.1.2.2 予測

海域における赤土等の水の濁りの予測は、南側仮設調整池で濁水を浸透させた後に機械処理設備から轟川へと排水され、海域へ流入した場合の機械処理水の寄与濃度と底質への堆積状況について予測を行った。

1) 海域における赤土等の水の濁り

(1) 予測の概要

海域における赤土等の水の濁りの予測の概要は、表-6.5.1.2(8)に示すとおりである。なお、4層沈降拡散モデルは、海域を4層に分割し、濁りの沈降と水平方向への拡がりを考慮することで、より現実に近い濁りの分布を予測できる特徴がある。事業実施区域周辺海域は、河川水が流入し、リーフ地形であることから海域の流れは複雑に変化することが考えられるため、本予測手法を採用することが妥当であると考えられる。

表-6.5.1.2(8) 予測概要

予測項目	海域への流入に伴う寄与濃度
影響要因	造成等の施工による一時的な影響
予測地域	事業実施区域前面海域
予測対象時期等	南側仮設調整池の機械処理設備からの処理水の排水時における夏季の降雨時（10年確率降雨：259.4mm/日）及び平常時
予測方法	4層沈降拡散モデル

(2) 予測方法

① 予測の前提

海域における赤土等の水の濁りの予測に当たっては、「第6章 6.5.1.1河川」と同様、「赤土等流出防止対策技術指針（案）沖縄県土木建築部」に基づき、赤土等の流出を防止することを基本として、各種の現場状況に応じ適切な発生源対策を実施する。発生源対策によって抑制された濁水については、地下浸透方式や機械処理方式の濁水処理対策を実施することを前提とした。

② 予測手順

土砂による水の濁りの予測手順は、図-6.5.1.2(9)に示すとおりとした。

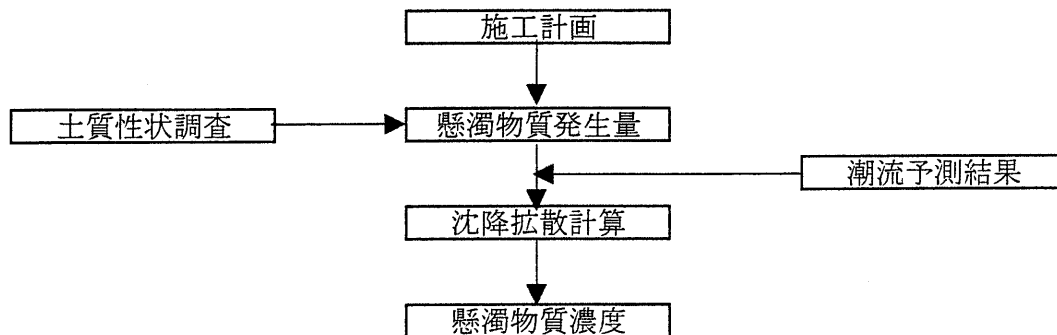


図-6.5.1.2(9) 土砂による水の濁り（SS）の予測手順